



新油松環

86-5495-5000

株式会社フレイザー・ワス ビジネスコンサルティング

2018年にグレイソンマークス社、南島サービス運用やCRMシステムの運用・改善、企業文化づくりなど多岐にわたる業務を担当、物怖じしないチャレンジ精神とやる気あふれる姿勢で、顧客との関係構築に専念。現在はニーズを徹底して受け取る業務内容を中心に、サービス提供の質を高めようという力を発揮。

10年後のためのアドバイス!

私自身、自然が大好きなので、田舎から奥野村のおお山にジューニアと何回か来たと思っています。奥野村へのこの機会を得たことで、理想を現実とするの苦戦が着落。そしてそれらを楽しみ続けるための教育の重要性を感じています。前が、大いに刺激を受けました。ところが、手配した宿舎は本当に素晴らしい。奥野村さんの奥の奥の宿舎です。臨海に安心、安全な自然環境が保たれ、自然との調和をはかることが思いが通っています。また、今後の事業展開については「やみくもに上り下りし続ける」のではなく、独逸やオーストリアなどのアフター・ヨーロッパ・ビジネスを振起させながら事業の幅を広げていく」とのことなので、地域密着型企業としてのさらなる発展が期待されるかと感じました。

高野 そうですね。建築士だけでなく、たとえば食事も身体にいいものを選ぼうと、有機野菜など自然の力を生かした材料を使った料理のほうに傾いています。しかし、それにはどうしても相応のコストがかかるので、ビジネスとして成立させるにはその価値を理解し、それだけの対価を支払ってくれる顧客を探したり、そうした消費文化を醸成したりしなければなりません。一企業家としてできることはきられていますが、とにかく自分のできるところでやってみようという思いで事業に取り組みつづけてきました。

菊池 起業当初はそうした理想と現実の間で苦悩すること多かったかと思います。一番大変だったのはどういったところに

高野 側ではわかっていました。が、実際に会社を経営してみると、理想と現実のギャップが想像以上に大きかったです。理想を由てまで仕事はしたくないという思いがあったので、仕事を上手に拒否せずに調整することもしばしばありましたし、ときには「ヒコウとしないからこの考え方は間違っているのではないかと自分を信じられなくなりそうになったこともありました。菊池 そういった価値観のどこのように乗り換えてきたのでしょうか。」

高野 ある時期に覚悟をきめて自分のやり方を真くことにしたのが大きかったように思います。そして、自身の思いと社員全員に伝えなうえて、取引先にも会社の方針を「一言」のような形で表明したのです。一時的には



村内でのプレゼン、スライドの準備

文住宅では「自然っぽい表現」ではなく、「本物の自然素材」にこだわること。そしてお客さまにシツカリと寄り添い、ライフスタイルや予算に合わせた最適なプランを提案することを表明しました。また、完成して引き渡した後も定期的なメンテナンスを行い、自社の顧客に時間をかけて当社の価値を知ってもらいたくようにしました。

菊池 聖吾 お客さまにはどのような提案をしているのですか
高野 まずは無料でご相談にのじたいうえでショールームにお越しいただく、実際に自然素材の肌触りや空気感、においなどをお客さまに体験していただくをお客さまに体験していただく、お客さまのニーズを踏まえて、わかりやすいビジョンを共有してから工事に取り掛かるようにしています。そうやってシツカリと納

得いたたいことが、住んだ後の満足感にもつながると思うからです。

また、材料についてはできるだけ、原料の調達段階から環境にやさしいものを厳選しています。天然石をはじめとする無垢材や、高い調湿性を誇る土壌土（藻類）をはじめとする植物性プラスチックの化石が泥と一緒に堆積して岩石化したものの、カビや細菌の発生を抑える吸蔵などを活用しながら機能的な高い仕上がりを目指しています。もちろん、デザイン面にも注力しており、一人ひとりのライフスタイルや価値観に合わせたオーダーメイドの住まいづくりを心掛けています。そのために、同業他社よりもヒアリングや作業時間がかかっていますが、それが差別化にもつながっていると自覚しているので、これからも

大切にしてください。名の方（菊池）
を社員や取引先、お客さまにも
つと共有できるようにしてい
たいと思っています。

菊池 高野社長の思いが伝われ
ば、さらに多くのファンを獲
得できると思います。さらなる成
長に向けて頑張ってください。

高野潤・夢工房代表取締役 小
 学校5年生のとき、担任の先生

高野 潤

たかの・しんぞう

株式會社藝工機 代表取締役 松本 隆夫

1968年生まれ。91年法政大学社会学部卒業。就職会社エコーレーショを経て、2000年九州流通(福岡市、福岡流通コーポレーション)に入社。03年同社代表取締役。08年同社建設部門を独立分社し、興業工業を設立。



10年後をリードする 未来企業

91

自然素材を取り入れた住まいづくりで
ビジョンを共有してファンを獲得

横浜市を拠点に、首都圏などでリフォーム・リノベーション、新築・注文住宅の設計と施工を手掛ける建築工房。同社は高野清社長が小学生の頃から思い描いていた「自然素材にこだわる」というコンセプトの下、コロナ禍のなかでも着実に成長している未来企業だ。さっそく、高野社長の夢と思いに棟プレインマークスの堀池裕喜氏がアプローチした。



施工管理



四、对《意见》的几点认识

から繰り返し「人間は動物と
じて地球に住まわせてもらって
いる」と教へられました。振り
返ってみると、その影響で「人
間は山を切り崩して家やマシン
シヤンをつくり、住みやすいよう
に建てていったんだ」と感じる
ようになり、いつの頃からか
「自然と人間のつながり」につ
いて真面目に考えるようになった
ように思えます。また、大学中
になつてスキー旅行に行つたとき
の経験も大さじ1です。その
ときに運搬車が高熱が出てしま
い自然素材のログハウスで休ん
だのですが、不思議なことにい
みるみるうちに元氣になったの
です。これも自然素材の持つ力
に興味を持つキッカケになりま
した。

薬池 その後、どうして開発するの道を選んだのですか？

高野 「人間と自然の共存を追求する」というテーマの卒業論文を執筆したのを機に、現代の生活や経済の発展を阻んでいるのは開発する側だという認識を皆つよくなりました。それで、どうしたら自然と調和した開発を実現できるのだろうかと考えた末に、その答えを自分なりに出すために建築業界に飛び込んだのです。

薬池 現在、世界ではSDGs（持続可能な開発目標）が叫ばれ、各国の企業が自然環境の保全とバランスのとれたビジネスはどういうものかと模索しています。貴社社長はこの意識が出てくる前からそのことをずっと思い描